

## &lt;別紙1&gt;

## 第三者評価結果報告書

## ①第三者評価機関名

株式会社ケアシステムズ

## ②施設・事業所情報

名称：にじいろ保育園 稲田堤	種別：保育所	
代表者氏名：園長 岡田 倫子	定員（利用人数）： 60名（54名）	
所在地：〒214-0004 神奈川県川崎市多摩区菅馬場1-23-32		
TEL：044-299-8583	ホームページ： <a href="https://www.like-kn.co.jp/academy/establishment/nijiiro/inadadutumi/index.html">https://www.like-kn.co.jp/academy/establishment/nijiiro/inadadutumi/index.html</a>	
【施設・事業所の概要】		
開設年月日：2018年4月1日		
経営法人・設置主体（法人名等）：ライクアカデミー株式会社		
職員数	常勤職員： 16名	非常勤職員 7名
専門職員	（専門職の名称）	
	看護師： 1名	保育士： 12名
	栄養士： 2名	
施設・設備 の概要	（居室数）	（設備等）
	保育室（6室）、相談室、職員室、休憩室、ロッカールーム	給食室、沐浴室、調乳室、シャワー室、空気清浄機、クレベリン置型、防犯カメラ

## ③理念・基本方針

「人から有難う」と言われるサービスを提供することを企業理念の軸としている。

## 保育理念

「のびやかに育て だいちの芽」温かな環境の中で、一人ひとりの心に寄り添い人や物、自然との豊かな出会いや体験を通して生きていく力を育てる事を保育理念としている。

保育方針：みとめ愛・みつめ愛・ひびき愛（信頼、安定、共感）

- ・自分らしさを発揮しながら、相手を尊重し、信頼し合い、認め合い、自分の事も友達の事も好きと言える子ども
- ・いつも見守られ、見つめられている安定した空間の中で、心身共に健やかな子ども
- ・響きあい共感し合う喜びを自信に繋げ、力強く逞しく生きていける子どもを目指している。

## ④施設・事業所の特徴的な取組

- ・地域的にとても自然に恵まれ多摩川・二ヶ領用水や特産物の梨畑等があり、散歩時は、季節を感じながら身体作りに励んでいる。近くの公園には、大型アスレチックも有り、他園の子ども達や、近所の子ども達も遊んでおり一緒に触れ合いながら楽しんで遊びを展開している。
- ・保育園には、日当たりの良い園庭があり、花壇を作り季節の花や野菜の栽培も行っており、乳児から幼児組まで水やりや観察、収穫まで心豊かな体験をしている。

- ・保育室では、月1回地域のボランティア（シニア）の方々が、乳児組、幼児組に分かれて「絵本の読み聞かせ」を行って下さり、毎回楽しみにしている。
- ・幼児組は、体操教室（月2回）、造形教室があり、心身共に健やかに自己表現しながら取り組んでいる。

#### ⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2020年6月17日（契約日）～ 2021年3月29日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	0回（年度）

#### ⑥総評

##### ◇特に評価の高い点

##### ・子どもたちの地域との交流機会を大切にしている

地域の保育園との乳児クラスの交流として、公園に集まり、体操、手遊び、大型絵本の読み聞かせ、各園持ち回りで出し物などがあり、交流を深めている。年長児クラスでは、ドッジボール大会や、ゲーム等グループに分かれてのお楽しみ会が定期的開催されている。また、地域の高齢者施設との交流や近隣の協力による畑でのミカン狩りなどの機会も設けられ、子どもたちが地域と交流できる機会を大切に保育に取り入れている。

##### ・子どもに寄り添い丁寧な保育に努めている

子どもの人権を大切にし、どのような場面であっても無理強いしたり、保育士が感情的になることが無いように共通の認識のもとで、一人ひとりに寄り添う丁寧な保育に努めている。保護者からは、職員個々の人柄や子どもとの関わりへの信頼感と安心感を評価する声も聞かれており、穏やかな園全体の雰囲気がかえらる。

##### ・子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している

年齢や発達に応じた玩具の提供や外遊び以外にも、食育活動、制作活動、体操、音楽、ダンスなどを取り入れたり、日常的に楽器にふれたりできる環境を整え、子どもが様々な表現活動に取り組めるようにしており、子どもの生活と遊びを豊かにする保育が展開されている。今回実施した保護者アンケートにおいて「園での活動は子どもの心身の発達に役立っているか」の設問では大変高い満足度が得られており、家庭では体験することのできない活動への感謝の声も聞かれている。

##### ◇改善を求められる点

##### ・中長期計画、事業計画をより実践的に活用してほしい

法人統一の様式で中長期計画、単年度事業計画が策定されており、進捗（達成）状況を期間を定めてトレースする仕組みは整っている。さらに、計画の達成度を測る具体的な指標を定めて、計画の推進を可視化できるよう取り組むことも望まれる。職員をはじめ保護者へも分かりやすく伝えることで、実効性のある計画として推進することが望まれる。

##### ・保育の質の向上にむけてさらに取り組みを強めていくことを課題としている

指導計画の振り返り、園の自己評価、などにより保育実践の振り返りに努め保育の質の向上に向けて取り組んでいるが、開園3年目ということもあり、一人ひとりの意識や専門性の向上にむけてさらに取り組みが必要であることを認識している。職員一人ひとりが振り返る力、見通す力、想像する力、挑戦する力などへの取り組みを強めていくことを課題としている。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

保護者アンケートの結果を踏まえ、保護者の園に対する意向や要望を把握理解するとともに、改善に向けて職員一同努力していくことが必要である。

また、組織として保育の質の向上に向けて職員と協働し計画的に取り組んで、課題を一つひとつクリアしていきたい。

子ども達・保護者・職員一体となって、子ども達一人ひとりの健やかな成長を願い、地域に根差した保育園を目指し努めていきたい。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり